

## 高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述(抜粋)

この資料は、新学習指導要領（平成30年3月告示）解説（同年7月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

### 【総合的な探求の時間】

#### 第5章 指導計画の作成と内容の取扱い

##### 第2節 内容の取扱いについての配慮事項

###### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(5) 探究の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。

(略) 総合的な探究の時間では、生徒の探究の過程において、コンピュータなどの情報機器や情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用することによって、より深い学びにつなげるという視点が重要である。

総合的な探究の時間においては、「課題を設定する」、「情報を収集する」、「情報を整理・分析する」、「まとめ・表現する」という探究のプロセスを繰り返しながら課題の解決や探究活動を発展させていく。これらのプロセスにおいて情報機器や情報通信ネットワークを有効に活用することによって、探究がより充実するとともに、生徒にとって必然性のある課題の解決や探究活動の文脈でそれらを活用することにより、情報活用能力が獲得され、将来にわたり全ての学習の基盤となる力として定着していくことが期待される。(略)

情報を収集・整理・発信するとは、探究活動の目的に応じて、本やインターネットを活用したり、適切な相手を見つけて問合せをしたりして、学習課題に関する情報を幅広く収集し、それらを整理・分析して自分なりの考えや意見をもち、それを課題の解決や探究活動の目的に応じて身近な人にプレゼンテーションしたり、インターネットを使って広く発信したりするような、コンピュータや情報通信ネットワークなどを含めた多様な情報手段を、目的に応じて効果的に選択し活用する学習活動のことを指している。

情報の収集に当たっては、図書やインターネット及び**マスメディア**などの情報源から必要な情報を得るにはどのようにすればよいのか、ワークシートなど手書きの記録と併せてデジタルカメラやICレコーダーなど情報を記録する機器を用いて情報収集するにはどのようにすればよいのか、それぞれの長所や短所は何であり、目的や場面に応じてどのように使い分けるのかというような、活用する情報機器の適切な選択・判断についても、実際の探究を通して習得するようにしたい。(略)

(9) 学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

総合的な探究の時間における探究の過程では，様々な事象について調べたり探したりする学習活動が行われるため，豊富な資料や情報が必要となる。そこで，学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ，タブレット型端末を含むコンピュータ等の情報機器や校内ネットワークシステムを整備・活用することが望まれる。

学校図書館の「学習センター」，「情報センター」としての機能を充実させ，図書の適切な廃棄・更新に努めること等により，最新の図書や資料，**新聞**やパンフレットなどを各学年の学習内容に合わせて使いやすいように整理，展示したり，関連する映像教材やデジタルコンテンツを揃えていつでも利用できるようにしたりしておくことによって，調査活動が効果的に行えるようになり，学習を充実させることができる。さらに，司書教諭，学校図書館司書等による図書館利用の指導により，生徒が情報を収集，選択，活用する能力を育成することができる。また，インターネットで必要なものが効率的に調べられるように，学習活動と関連するサイトをあらかじめ登録したページを作って，図書館やコンピュータ室などで利用できるようにしておくことも望まれる。(略)

## 第8章 総合的な探究の時間の年間指導計画及び単元計画の作成

### 第2節 年間指導計画の作成

#### 2 作成及び実施上の配慮事項

以下，年間指導計画の作成及び実施に当たって配慮すべき四つの点について述べる。

#### (2) 実社会や実生活との接点を生み出すこと，季節や地域の行事など適切な活動時期を生かすこと

年間指導計画の作成においては，生徒の発達の特徴から，実社会や実生活と自らの行為とのつながりを自覚するとともに，実社会や実生活との接点が生み出せるように総合的な探究の時間を行うよう配慮することが大切である。(略)

また，年間指導計画の作成においては，1年間の季節や行事の流れを生かすことが重要である。季節の変化，地域や校内の行事等について，時期と内容の両面から，総合的な探究の時間の展開に関連付けることかできるかを，あらかじめ検討することが大切である。(略)

歴史的な記念日や国際的な記念日をきっかけに，課題の解決や探究活動を展開する際にも，同様の事が考えられる。例えば，世界環境デーや国際平和デーなどの国際デーは，国際連合などの国際機関によって定められた記念日であり，毎年決められた日や週などに特定の問題に関して関心を高めたり，問題の解決を呼びかけたりしている。国際デーが近づくと**報道**などでその内容が紹介されることも多い。このような機会をとらえて，**新聞**やテレビなどから得られた資料を紹介するなどして関心を呼び起こし，地域で行われる活

動に生徒が参画したり、専門家を教室に招いて話を聞いたりする、さらには、校内や地域で、独自にその記念日の趣旨に基づく活動を企画して実行することへと発展することもできる。社会的な関心の高まりを生かした学習活動を行うことによって、生徒の学習は一層深まるものと考えられる。

### 第3節 単元計画の作成

#### 1 単元計画の基本的な考え方

##### (2) 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成

生徒の興味・関心等に基づく生徒主体の学習活動の中で、意図する学習を効果的に生み出し、資質・能力を育成するためには、教師による意図的な単元構成が欠かせない。単元を構成するに当たっては、次の2点に留意することが大切である。(略)

これらの留意点は、具体的には次のような指導や生徒の姿に結び付く。

ここでは、「自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題」を探究課題とする単元計画を作成することを考える。

まず、その関心や疑問から、生徒はどのような活動を求め、展開していくだろうか、と考える。生徒は、地域や地球上で起きている環境問題について他教科等や**メディア**、書籍等から情報を得たり、小・中学校などで学習した経験があったりすることから、環境問題への関心や知識をもっているであろう。そうした生徒は、自然環境がどのように変化し、それがどのような環境問題となっているかを調べたり、自分がもっている知識や認識が正しいのか確かめたりしようとする。この場面では、地域の自然環境の変化、国内や世界の環境問題、環境が人間に与える影響などの課題を設定し、調査したり、情報を集めたりする。地域の自然環境の変化であれば、市史や昔の写真との比較、住民へのインタビュー調査、地域の状況に詳しい専門家へのインタビューなどを行うであろう。国内や世界の環境問題が人間に与える影響であれば、書籍や調査研究のデータを収集したり、専門家へのインタビューをしたりするであろう。ここで、集めた情報を整理・分析し、互いに交流する場を設ける。そうすると、地球温暖化は世界規模の問題でもあり自分たちの地域の問題でもあることや、大気汚染や水環境、食糧の安全性など、人間への影響が大きいことを再認識すると同時に、このような問題に対して人間がどのように関わっていけばいいのかという疑問をもつようになる。そこで、今も続く環境問題として被害者の話を聞く場を設定する。被害者の話を聞いた生徒は、被害者の苦しみに心を寄せ、現状に憤りを感じるであろう。そうした生徒は、さらに、環境問題の被害者や加害者はどんな人で、今現在その関係はどのような状況にあるのかを知りたいと思うであろう。また、被害者はどのような思いで暮らし、問題の改善のためにどのようなことに取り組んでいるのか、被害者ではない周りの大勢の人はその問題や被害者、加害者に対してどのような思いをもっているのか、日本の政府はどのような取組をしているのか、世界的にはどのような取組をしているのか等の問いをもつであろう。それぞれの問いや疑問から「環境問題が社会に与える影響

は何か」,「世界の環境問題と私が住む地域の環境との関連」などの新たな課題を設定し,課題解決の情報を得ようと動き出すであろう。例えば,水俣病を手がかりに探究していく生徒であれば,原因物質であるメチル水銀や神経病理学についての論文や発展途上国と水銀汚染の関係に関する論文を読むであろう。また,国連環境計画(UNEP)の報告書や「水銀に関する水俣条約」外交会議の取組を調べたりもするであろう。

さらに,調査結果やまとめたことを交流することにより,自分を含めた人間が加害者にも被害者にもなり得るという視点や,持続可能な社会を実現するという視点をもちながら議論をし,考えを深めていく。

このように,環境問題を人権,経済,エネルギー,生物多様性などの側面から深く,あるいは多様に探究していくことで,持続可能な社会づくりの概念的知識が形成され,探究の見方・考え方を働かせながら,資質・能力を獲得していくような深い学びを実現させていくことができる。

例を挙げて述べてきたように,生徒の視点で丁寧に単元を構想する中で,各学校が設定した目標及び内容が,確かに実現するかどうかを判断していかなければならない。特に,教師はどこでどのような意図的な働きかけをする必要があるのか,またその際に留意すべき事柄は何かなども,具体的に明らかにすべきである。

以 上